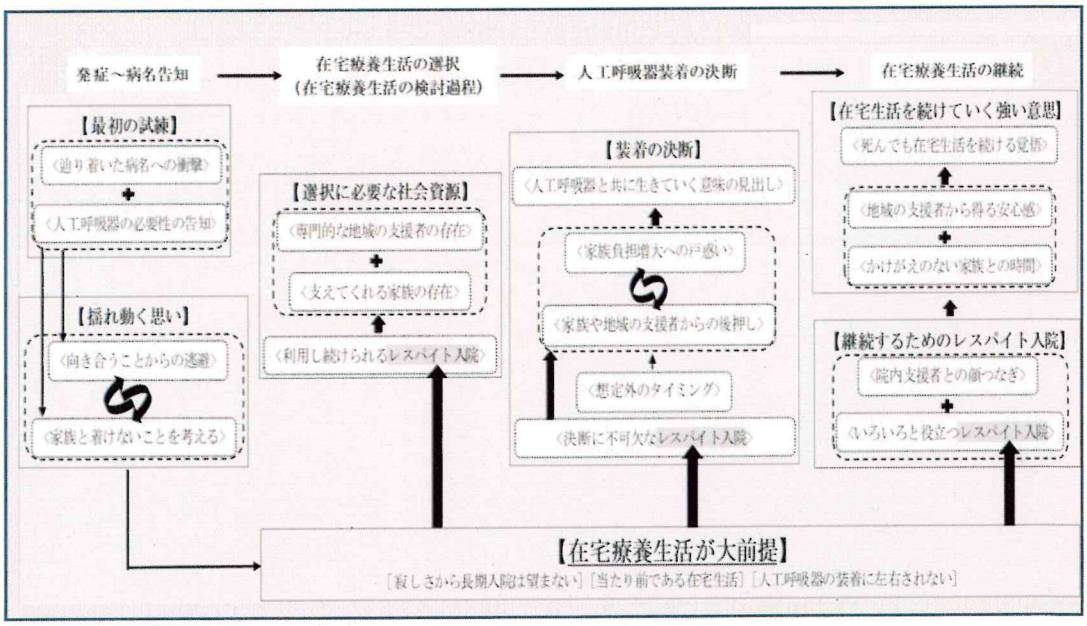
ALS 患者の療養プロセスにおけるレスパイト入院の意義

独立行政法人国立病院機構七尾病院
医療ソーシャルワーカー 上田 竜也

【目的】人工呼吸器装着状態で在宅療養生活を送っている ALS 患者の療養プロセスとはどのようなものか、そのプロセスにおいてレスパイト入院はどのような意義を有しているかを明らかにする。【方法】半構造化インタビューを実施、逐語録作成、質的記述的研究法によって分析した。【結果】構造図およびストーリーラインを作成、療養プロセスは①発症～病名告知、②在宅療養生活の選択、③人工呼吸器装着の決断、④在宅療養生活の継続であること、レスパイト入院は全プロセスにおいて欠かせないサービスとして位置付けられていることがわかった。【考察】全プロセスにおいて在宅療養生活が大前提という考え方が基盤となっているため、人工呼吸器装着などの医療行為に関する希望よりも在宅療養生活に関する希望を優先した支援展開が望ましいと考える。病初期段階からレスパイト入院に関する情報提供を行ってその効果を最大限に発揮できるような支援が必要と考える。

構造図